



死ね 熱く 生きる な 無駄にな

**DON'T LIVE DULLY.
DIE WITH PASSION.**

直江文忠

サンクチュアリ株式会社 代表取締役

Naoe Fumitada

Sanctuarybooks

無
駄
に
生
き
る
な
熱
く
死
ね

無駄に生きるな熱く死ぬ

直江文忠

サンクチュアリ出版

i n d e x

0 1	無駄に生きるな。熱く死ね。—————	014
0 2	終わりを意識しろ。—————	018
0 3	悩む頭なんてない。何も恐れるな。—————	022
0 4	依存するな。1匹のライオンになれ。—————	026
0 5	出るクイになれ。—————	030
0 6	直感を信じろ。—————	034
0 7	ヒーローから学べ。—————	038
0 8	感情の揺れをバネにしろ。—————	052
0 9	あえて窮地に飛び込め。—————	056
1 0	自分の短所を人のために使え。—————	060
1 1	いま、目の前のことに全力を出せ。—————	064
1 2	みずからリスクを負え。—————	068
1 3	消極的な感情をねじ伏せろ。—————	072
1 4	自分にとって気持ちのいい土地を選べ。—————	076
1 5	実績を出してしまえ。面倒だから。—————	080
1 6	迷ったら、腹をくくれ。—————	084
1 7	我為す事、我のみぞ知る。自分を貫け。—————	088
1 8	平和は危険だ。変化を楽しめ。—————	098
1 9	マイナスはない。あっても無視しろ。—————	102
2 0	思いっきり遊べ。ストレスを忘れろ。—————	106
2 1	冷静になれ。乗り切れないピンチはない。—————	110
2 2	愛の重さを感じろ。—————	114
2 3	自分に酔え。—————	118
2 4	体を強くする習慣をつけろ。—————	122
2 5	学習し、訓練しろ。—————	126
2 6	時間を使いこなせ。—————	130
2 7	強く生きろ。—————	148



S OR CREDIT C

PLEASE

WAIT

無駄に生きるな熱く死ね

HERE



CHAPTER 1
LIFE



私は台湾の“ゼロ番地”という地区で生まれ、バラック小屋で育った。

まるで洞窟みたいなところだった。後で知ったことだが、そこは旧日本軍が残していった防空壕の中だったらしい。

生まれたときから父親はおらず、生活はまさにどん底の状態だった。拾ったゴミを売って生計を立てる人たちが多いこの地区で、裸で水浴びし、近所をうろつく野犬と遊び、水や電気を盗む毎日を過ごしていた。いつも腹が減っていて、ときどき目の前を走るネズミを捕って食べようと思ったこともある。

戦時中ならともかく、これが日本経済が急成長をとげていた1980年代のことだから、意外に思う人も多いかもしれない。

その頃の思い出はほとんど残っていない。

いまだに覚えているのは、母親が「お金持ちも貧乏人も、みんな、同じご飯粒を食べている。与えられた時間もまったく同じ。おまえには膨大な時間が残されている。だから、できない理由を探す方が難しい」とよく言っていたことだけだ。

日本にきたのは6歳のとき、母親が日本人と再婚したのがきっかけだ。貧しい生活から脱した私は、豊かな日本での生活に胸を躍らせた。

しかし待ち受けていたのはひどい差別だった。言葉づかいがおかしいといっっては同級生に笑われ、台湾人だというだけでいきなり殴られる。そんなことが何年にも渡って繰り返された。とにかく面倒だった。ときには腕力でやり返すこともあったが、かえって差別を増長させるだけだった。

そのうち私は気がついた。

この国で私はマイノリティで、その事実は死ぬまで変わらない。そして将来、みんなと同じように大人になっても自分の過去が障害になるだろう。

かといって周囲を変えようと争っても空しい。いっそ自分自身が変わってしまった方がよっぽど楽だ。それもハンパな変わり方じゃない。誰からも意見されないような、圧倒的なチカラを手に入れたい。

自分をもっと強くなれば、きっと自由になれる。純粹にやりたいことを極められる。

だからなんでもいいからとにかく世界一になってやる。10代の私は貧困と差別という特殊な環境の中でそう決意した。

でも、一体なんの世界一になるべきだろう？

なんのために生きるべきだろう？

そんなふうに答えのない答えを探した時期もあったが、結論としてはなんでもよかった。私ほどとにかく血湧き肉躍るような世界に飛び込みたかった。







01

無駄に生きるな。熱く死ね。

答えが見つからないとき、いつも誰かがかわりに答えてくれるだろうと思っている。自分の人生を、自分で切りひらこうとしていない。自分の意志で動いていない。そんな毎日が続いている。

このまま他人まかせの人生を生きるか。
それともいまから自分の人生を生きるか。

たえず正体不明の何者かにビクつき、視点の定まらないような人生なんて無意味だ。一刻も早くこの生ぬい日常から脱し、自分の頭で「なぜ生きているんだろう？」と考えたい。みんな、死ぬ。生きているということは、確実に死に向かっている。もしかしたら明日、死ぬかもしれない。しかし、そうやって死を受け入れることで、もっと強くなろう、いまを大事にしようという生命力があふれてこないか？

無駄に生きるな。熱く死ね。

誰かによって作られた目標に翻弄されることなく、
自分の本心から生まれた目標を大切に。

そしてやると決めたからには、腹をくくる。すべて
自分のせいだ。

パートナーが悪かった。時間が足りない。もっとお
金さえあれば。いいアイデアが浮かばない。意見を
聞き入れてくれない。後でそういう言い訳をしない
ように、決断するときは「もしも途中でやめたら自
分の片腕を差し出す」くらいの覚悟があるかどうか
を確かめる。腕を切られれば痛い。それでも本当に
やり通せるかどうか、自分の心とゆっくり向き合い
たい。

自分のことは、自分で決める。

自分との約束を、自分から裏切らない。

これが自分の人生を楽しみ尽くすための最善の方法
だ。